



TOMOKO JOSANIN

しも子助産院



助産師 伊藤朋子
〒981-3124
仙台市泉区野村字野村95-6
Tel 022-772-5960
メール tomo@tomo-j.jp

2014年1月発行

2013年のできごと

8月の暑い日、お産ラッシュがありました。



旅行に出かけました。

これまで、いつだって分娩待機。電話を抱きしめ、どこにもでかけずに助産院に貼りついていましたが、いいスタッフが集まり育ち、留守を任せられるようになってきたのを幸いに、学会だ、研修会だといった、遠方まで足を伸ばし、あっちこちでかけてまいりました。

5月は、四国にいきました。あこがれの、ほっこ助産院へ、夫ともども、お泊りさせていただきました。介護デイサービス・病後保育・親子ひろばを併設した助産院です。香川うどん県で讃岐うどんを堪能し、徳島の阿波踊りも体験しました。そのご縁で、ほっこ助産院の山本文子助産師に、仙台へ講演に来ていただけることになりました。

9月に札幌に行きました。北海道の美味しいものと、迫力のヨサコイソーランで歓迎をうけました。

10月には、母と2人で奈良・京都を観光しました。母の修学旅行コースをたどり、娘時代の思い出を聞きつつ、着物屋・骨董品屋を巡り歩きました。

11月、大阪府助産師会館を初めて訪れました。大きなビルの会館に、びっくり。大阪の先輩諸姉の活躍ぶりが、しのばれます。

産後養生入院とデイケアが好評でした。

他の産院で出産されたママたちが、助産院で産後の養生のためや、赤ちゃんのいる生活に慣れるまでの間、授乳や育児の練習をしにいらしゃいます。助産院に滞在して赤ちゃんのペースでじっくり関わると、直接授乳ができずに泣いてばかりいた赤ちゃんが、おっぱいを吸えるようになることも多く、30分刻みの母乳外来や、家庭訪問だけでは、なかなかできなかった成果がみえて、助産師としても手ごたえとやりがいを感じています。

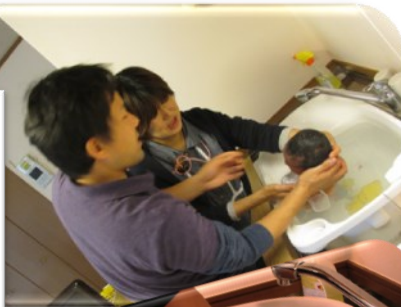
以前より助成金を出して取り組んでいる自治体もありますが、宮城県内ではまだまだようです。家族力・地域力のなくなったこの時代、助産院は実家の母親のかわり、近所の世話焼きおばちゃんのかわりとなって、新しい家族のスタートを応援していきたいです。これこそ、地域の産婆のもっとも得意なところ。内閣府がアベノミクス骨太の改革のなかで、産後ケアの充実をあげています。新米ママ達が、自信をもってゆっくりママになっていけますように、ベテランママ達が、上の子の心配をせずに産後の休養をしっかりとれますように。

今後の行政の動きに注目しています。

いいお産の日の20年

11月3日は「いいお産の日」。REBORNというグループが、活動を開始し、20年目という記念の年でした。第1回よりずっと関わってきて、これまでの歩みを振り返るビデオが上映され、そんなに経ってしまったのか〜と、とても感慨深かったです。多くの同志に再会しました。

いまでは常識の「母乳育児成功のための10カ条」も当時知って実践していたのは、ほんのわずかの母乳オタクの人達だけでした。それが今や看護学校の教科書に、フリースタイル出産の図説まで掲載される時代です。産む側と一緒に取り組んできたお産の活動のなかで、大きく変わったこともあるし、20年前と変わらぬ課題が、まだ多く残されていることも再確認し、原点に立ち戻ってきました。





どなたでも参加できます。
市民講座へのおいでを
お待ちしております。



日程はまだ未定ですが、今年もジョイセフさんと宮城県助産師会で、妊婦さんやママ向けの楽しいイベントを企画中です。



講師：いのちの応援舎 理事長・助産師 山本文子先生
NPO法人「いのちの応援舎」は、宮川線で、老人ケア・病後回復・親子ひろばと共に「ぼっこ助産院」を運営している。助産師がコアとなる支援のプロジェクトです。妊娠・出産・産後ケアを、行政とタイアップし先駆的に取り組んでいらっしやいます。かつ、子供たちへ熱いメッセージを届ける講演も、全国で多数行っているらしいです。今回は、助産師としてこれまで山本先生が即産期の子供たちや親たちへ、伝えてきたこと、いのちの大切さを伝えるために大事にされていることなどを、お話しいただきます。

平成26年
4月19日(土)
13時00分~15時00分
会場：仙台市情報・産業プラザ
ネットU セミナー室-2
AER(アエル)6階(アクセス:JR仙台駅徒歩2分)
対象：宮城県助産師会 会員 と 市民
定員：先着 140名
参加費：500円(会員無料)

山本文子先生からのメッセージ
中学校や高校生を中心にいのちの話を始めて25年以上になります。私の性教育は、助産師としての現場を踏まえた、いのちの源である性、生まれ出たいのちを大切に育てる「いのちの教育」です。性についてちゃんと知ることは、いのちについて考えることだと思っています。から「りち」とひらがなで表現するのは、生命と同時に心の部分を含みます。このあいだに、子どもたちをとりまく環境は素晴らしいものがある。じめや自殺、虐待、といろいろい話も多くなっています。いちちをよりあげてきた私は、人はみな「産まれて生まれたら」「いらないいのち」というのではないのだということをずっと考えています。産んでいながら知らなかったために悲しい目にあうこと、私にできることをしよう、若いみんなのいのちの応援団です。

増築計画進行中 (秋ごろ完成目標)

駐車場のスペースに、待合室を兼ねたダイニングと外来用の診察室を増築予定です。子育て中のママ達が、遠慮なく集える場所になったらいいなあと思っています。妊婦さんの夫や家族にも居心地のいい場にしたいです。今年もランチ会が人気でした。tomoカフェができたらいいなあ。夢は膨らむ・・・。

家族の全面協力のもと、究極の職住一体でやってきましたが、開業14年目にしてプライベートスペース確保へ取り組む事に。利用者数の増加はそれほどでもないのですけれど、実習生やスタッフ数が多くなり、かなり手狭になってきてしまいました。とはいえ助産院の上に家族で住み続けるのは、これまでと一緒にです。親戚の家に遊びにくる気分で、いつでも訪ねていただけたら、うれしいです。

そして、もうひとつのワクワクは、秋田の姪っ子が仙台の学校に通うことになり、うちに下宿することになったこと。過干渉にならないように、努力します…。できるかな…。

とも子助産院名物の七北田川の古屋敷橋。とうとう架け替え工事が決まりました。赤の点滅信号と片側交互通行で、ときには異次元にワープしそうな雰囲気を感じ出すツツまで垂れ下がり、「本当にここは渡ってだいじょうぶなの？」と不安にさせる橋でした。よくあの大地震を持ちこたえたものです。そうはいつでも昭和45年開通とプレートがあり、私より年下なんですね。三色信号と、憧れの歩道つき相互通行の新しい橋が完成してから、平成28年に現在の橋が撤去になる予定だそうです。歩いておいてになるお子さん達や、妊婦さんたちにも、安全に通いやすくなります。



携帯用ホームページ
ブログ更新中



農業部イモズル会発足♥
(部員代表：山田・近藤)

皆様のご健康とご多幸を
お祈りします。

毛糸のおぱいプロジェクト

全国各地でご厚意により、毛糸のおぱいプロジェクトのブースを出ささせていただきました。温かいご支援に感謝です。震災より3年、細々ながらここまで継続してこられたのも、毛糸作品を購入して下さる皆さまと、サポートしてくれているママスタッフ達の活躍のおかげです。かわいい毛糸の作品が、次々と仕上がってきて箱を開ける瞬間が嬉しいです。干支の編みぐるみも、気仙沼の編み手さん作品です。東北の女は、じつとがまん強くてたくましい。へこたれないぞ〜、1人じゃないよ、なんとかかなるさ。春を待つ。



平成26年は午年、私の生まれ年。
鼻息荒く、今年も走り続けます。(と)

